

26	仏蘭西答屈智幾（ふらんすたくちき）		
	A J -25	慶応3(1867)	Ternay原著 村上英俊訳
	フランスのテルナイ(Ternay)著「戦術提要」の抄訳。		

- ◆ 訳者は仏和辞典『仏語明要』の著者でもある村上英俊である。基になった本はフランス人テルナイ(Ternay 1771-1813)の“Traite de Tactique”(1832)（「戦術提要」）である。しかし、英俊が実際に翻訳底本に用いたのは、フレッド・コッホ(Fréd Koch)陸軍中佐による増補改訂版(1832)である。英俊はこの改訂版の序文(23ページ)、及び本文(699ページ)の一部「行軍篇」(1-78ページ)を訳出した。

本書の構成は次のようになっている。

巻一 敵ノ弾丸至ラザル所ヲ為ス行軍 巻二 諸軍隊敵近キ所ヲ為ス進行ノ論

巻三 側面行軍ノ法

当時、ナポレオン一世の戦術が全ヨーロッパを席捲していた。このナポレオン崇拜熱は日本の地にも伝わり、佐久間象山等に強い影響を与えた。このような時勢の中で、幕府の役人は、英俊がフランス語に通じているのを知り、フランスの現状を説いて、兵法書、爆薬の書の翻訳を頼んだ。このような事情から、『仏蘭西答屈智幾』は生まれた。

- ◆ 当館は本書を2部(1部3冊)所蔵している。表紙見返しには、英俊が開いたフランス語塾「達理堂」の名がある。また、各冊の第1ページ目には「箱館御役所」「静岡師範学校」「駿府学校」の印記がある。

*マイクロフィルムあり。

27	歩軍操法		
	A J -29	安政 5 (1858)	藤沢亨平訳
	オランダ兵書の翻訳本。歩兵の訓練法が訳述されている。		

- ◆ 原著は“Reglement op de Exercitien en Manoeuvres der Infanterie”(1855)である。直訳すれば「歩兵の訓練と操作の規則」となる。

第一部・第二部・第三部(各1冊)からなり、その内容は、銃を持たない兵士の姿勢や歩き方、銃の取り扱い方の基本、行進の仕方などである。術語の多くにオランダ語の音が片仮名で付されている。

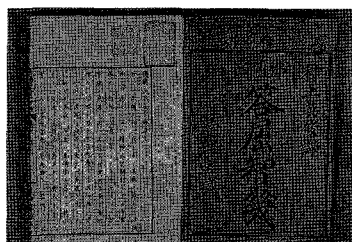
- ◆ 当館所蔵本は「諸術調所」「駿府学校」の印記をもつ。

<参考文献> 「静岡県立中央図書館蔵 諸術調所・箱館奉行所旧蔵書瞥見」

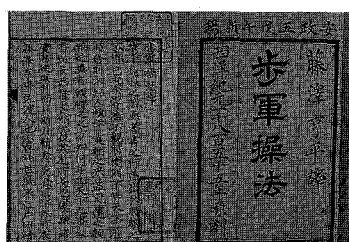
(『葵』12号 所収)(SZ01-3)

『ふらんす語事始』(850.2-1)

『フランス語事始-村上英俊とその時代-』(850-10)



26 仏蘭西答屈智幾



27 歩軍操法